

人文學報

CIV

京都大學
人文科學研究所

2013

人文学報

第104号

特集 近代都市の諸相

京都大学人文科学研究所

2013年3月

目 次

特集 近代都市の諸相

「京都御備」としての安政期の湖北通船路開鑿事業 ……………	鈴木 栄 樹	1
—— 彦根藩と小浜藩との対立を軸とした通説の 根本的再検討を通じて ——		
市村合併という〈都市計画〉 ……………	伊 従 勉	37
—— 首里・那覇の近代自治と官製都市計画の遅延 ——		
名都「京城」の夢 ……………	石 田 潤一郎	65
—— 「京城市街地計画」の植民地的特質に関する考察 ——		
十五年戦争と大阪城 ……………	能 川 泰 治	91
「非戦災都市」京都における建物疎開の戦後処理と法的規定 ………	川 口 朋 子	113
戦争の「事後」を考える ……………	長 志珠絵	137
—— 東京市忠霊塔のゆくえ ——		
京都民主戦線についての一試論 ……………	福 家 崇 洋	167
あとがき ……………	高 木 博 志	207

『人文学報』投稿規定

1. 『人文学報』は、年に原則二回刊行される学術誌で、人文科学に関する関連領域の論文、研究動向、資料紹介、書評・書評論文、講演会記録などを掲載する。
2. 『人文学報』には、所内研究者、共同研究班班員、所内の客員（国内客員および外国人研究員）、名誉教授、招聘外国人学者、外国人共同研究者、研修員、受け入れ学術振興会特別研究員が投稿できる。これ以外にまた、編集委員会が適切と判断して投稿を依頼する場合がある。
3. 本誌の論文等は原則査読の対象となる。原稿は、査読を経た後、編集委員会の責任において採否を決定する。
4. 稿料は支払われない。但し、論文、書評論文執筆者には本誌1部が無料で提供される。また抜き刷り50部が無料で提供される。
5. 著者校正は2回とする。
6. 投稿締め切りは、毎年5月末日とする。原稿は、『人文学報』編集委員会宛てに送付することとする。
7. 原稿作成にあたっては、『人文学報』執筆要領に従うこととする。
8. 他雑誌への二重投稿についてはこれを禁じる。
9. 『人文学報』に掲載された論文等について、その著者は複製権（電子化する権利）と公衆送信権（公開する権利）にかんする許諾を人文科学研究所に与えたものとする。人文科学研究所は公開の便をはかるために、京都大学が設置したサーバから掲載論文等を画像あるいはPDFなどの形式で送信することができる。
10. 図版、写真などを掲載する場合は、投稿者の責任において、あらかじめそれら図版、写真の所蔵者、著作権者から許諾を受けるものとする。

『人文学報』執筆要領

1. 使用言語は原則日本語とする。以下は日本語論文を想定した要領である。
2. 論文には、日本語（800字程度）と欧文（200語程度）の要旨を添付する。日本語のキーワードを5点記す。
3. 投稿原稿は枚数をとくに制限しないが、論文については本文12,000～48,000字を目安とする。書評・書評論文については4,000～8,000字を目安とする。
4. 原稿の表紙に、論文、研究動向、資料紹介、書評、書評論文などの区別を明記する。ただし、この点に関する最終判断は編集委員会が行う。
5. 原稿は、ソフト名を明記し、電子媒体（Eメールの添付ファイル）とその紙媒体を提出する。
6. 原稿は、A4サイズとする。
7. 図表、写真などには、それぞれ通し番号と表題を付ける。それぞれの挿入場所を、本文の右側欄外に番号で指定する（手書きでよい）。
8. 引用文献・参照文献などの形式は各専門分野の慣行に従うこととし、とくに規定しない。
9. 注は後注とし、注には通し番号をつけ、本文とは頁を改めて作成する。本文中の注は、字肩に上付きで、1）、2）などと記す。また、右側欄外に注番号を記しておく（手書きでよい）。
10. 書評、書評論文、新刊紹介などの場合には、別紙に、著者名（フルネーム）、書名（副題、シリーズ名、巻数なども含めて）、刊行地、出版社、ページ数、定価などを記す。
11. 他の言語で既に発表したものと内容が重なる場合は、その旨明記する。

『人文学報』編集委員会のアドレス zinbungakuho@zinbun.kyoto-u.ac.jp

編集委員

石 井 美 保

籠 谷 直 人

高 木 博 志

立 木 康 介

水 野 直 樹

人文学報 第104号

(京都大学人文科学研究所紀要 第172冊)

2013年3月25日 印刷
2013年3月29日 発行 非 売 品

発行所 京都大学人文科学研究所
京都市左京区吉田本町

印刷所 明文舎印刷株式会社
印刷者 中 村 仁
京都市南区吉祥院池ノ内町10

THE ZINBUN GAKUHŌ

JOURNAL OF HUMANITIES

Vol. 104

MARCH 2013

CONTENTS

Special Issue : Aspects of the Modern City

- A Full Review on the Construction of the Northern Biwako Canal
in the Ansei Period (1854–60) E. Suzuki
- Incorporation of cities and villages believed as a necessary step to Town Planning
in the years 1930 in Shuri and Naha : a little commitment of Home Ministry upon
Okinawa's Town Planning before and under the WW II T. Iyori
- The Colonial Characteristics of "Keijo Street Planning" J. Ishida
- The Fifteen Years' War and Osaka Castle Y. Nogawa
- Post war legal settlement and compensation by Japanese Government
for their intentional destruction of buildings in Kyoto during WW II T. Kawaguchi
- The trace of War Memory in Occupied Japan S. Osa
- A Study on Kyoto Democratic Front around 1950 T. Fuke

Published

by

THE INSTITUTE FOR RESEARCH IN HUMANITIES
KYOTO UNIVERSITY

ISSN 0449-0274